

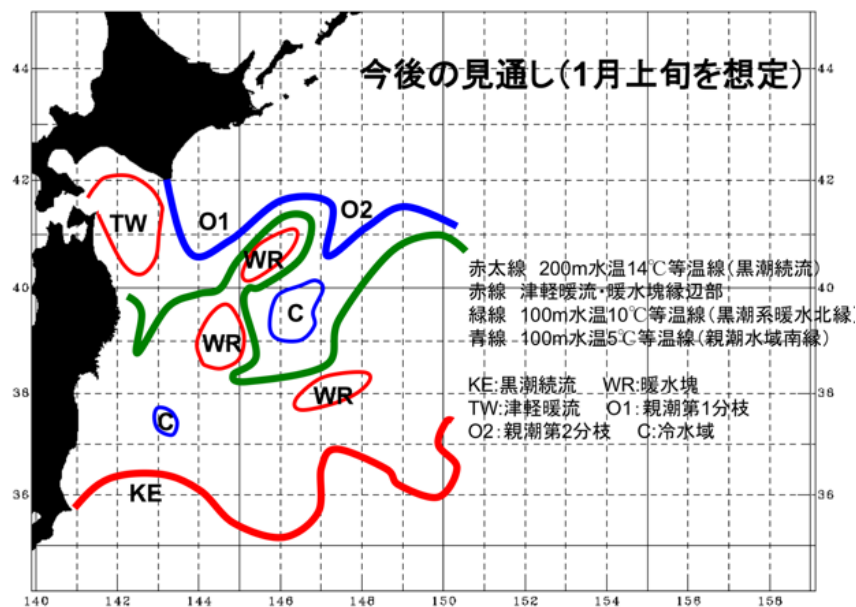


平成29年度 第4回 東北海区海況予報

- 一 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
東北区水産研究所、北海道区水産研究所がとりまとめた結果 一

今後の見通し(平成29年12月～平成30年1月)のポイント

- ・ 近海の黒潮続流の北限位置は平年並みからやや南偏で推移する。
- ・ 親潮第1分枝の張り出しは平年並みからかなり南偏で推移する。



問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 東北区水産研究所

担当：業務推進部 藤井、樽井

資源環境部 市川、長谷川、田中

電話：022-365-1191、ファックス：022-367-1250

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.fra.go.jp/>

平成29年度東北海区海況予報 第4号

《今後の見通し（2017年12月～2018年1月）》

近海の黒潮続流の北限位置は平年並み～やや南偏で推移し、親潮第1分枝の張り出しは平年並み～かなり南偏で推移する。金華山はるか沖の暖水塊は西方へ移動する。三陸沖の暖水塊は北東に移動する。常磐沖に暖水塊ができる。

《海況の経過（2017年9月～2017年11月）の特徴》

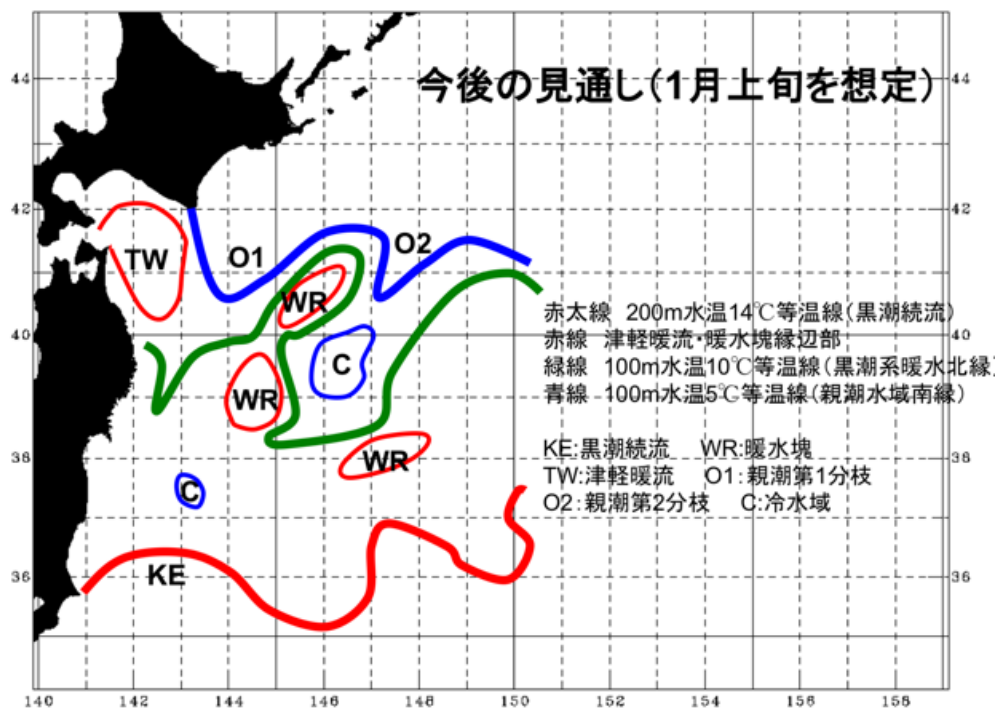
近海の黒潮続流の北限位置は平年並みで推移した。親潮第1分枝の張り出しはやや南偏～極めて南偏で推移した。金華山はるか沖に暖水塊ができ、三陸はるか沖の暖水塊は南西に移動した。三陸沖の暖水塊は北西に移動した。

《現況（2017年12月上旬）の特徴》

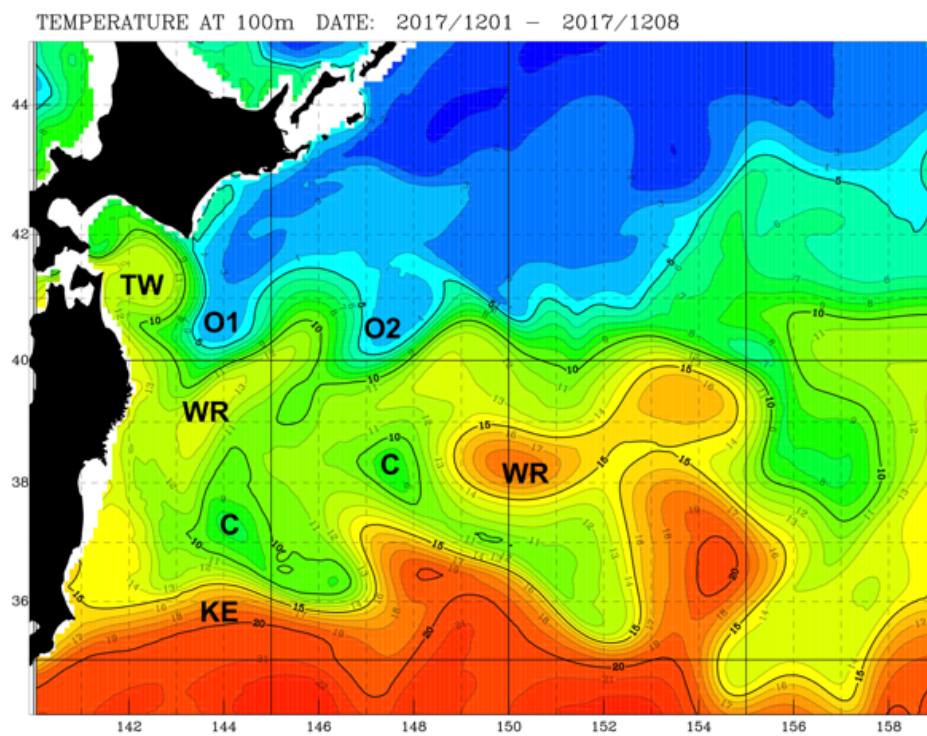
近海の黒潮続流の北限位置はやや南偏、親潮第1分枝の張り出しはかなり南偏である。暖水塊が金華山はるか沖、三陸沖にある。

（注）この海況予報は、国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2012年5月より運用を開始したFRA-ROMSシステムを用いた。FRA-ROMSは、我が国周辺太平洋域の海況経過を再解析し、2ヶ月先までの海況を予測する海況予測システムである。

1月上旬予測水温分布図



12月上旬現況水温分布図（100m深）



図中の記号はそれぞれO1が親潮第1分枝、O2が親潮第2分枝、KEが黒潮続流、TWが津軽暖流、WRが暖水塊、Cが冷水域を表している。

参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産試験場</p> <p>茨城県水産試験場</p>	<p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 北海道区水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関)</p> <p>国立研究開発法人水産研究・教育機構 東北区水産研究所</p>
---	--